

医局長の皆さんへ

『医局長メーリングリスト作成への協力をお願い』

日頃から医師会活動にご理解、ご協力をいただきお礼申し上げます。

山口県医師会勤務医部会（前川 剛志会長：山口県立総合医療センター院長）の企画委員会の委員長をしています地域医療機能推進機構（JCHO）徳山中央病院小児科の内田正志です。どうぞよろしくお願いします。

勤務医部会の活動として、病院勤務医との懇談会（東西 1 か所ずつ）、市民公開講座（東西 1 か所ずつ）、座談会（去年は、新専門医制度への対応として、大学の専門医プログラム作成に関わられた先生や新プログラムで募集された診療科の先生等にお集まりいただき、専門医制度の現状及び今後の取り組みの課題等について実施）、そして 2 月は勤務医をはじめ、医師に関心の高い医療事故調査制度についてシンポジウムを開催するなど、医師の過重労働の軽減などに取り組んでいます。

また、座談会と勤務医シンポジウムを中心に編集した勤務医ニュースを年 2 回発行しています。平成 25 年度から 4 年間にわたり、スキルアップ研修やフォーラムを開催するなど、医師事務作業補助者（医療クラーク）の活動を支援していますが、医療クラークとうまくコラボレーションすることで明らかに過重労働が改善すると言われています。平成 26 年度からは、県全体への普及啓発を図るため、医師事務作業補助者連絡協議会を組織してその強化を図り、医師事務作業補助者連絡協議会が主体的となって行なう研修会に対して側面的な支援をしています。

平成 29 年 2 月 4 日（土）には医師事務作業補助者研修会を開催し、100 名を超える方々が参加し、県全体で医師事務作業補助者のレベルアップを図っていくことが効果的であり、これはとりもなおさず、医師の過重労働の軽減に寄与すると考えます。皆様のご理解、ご支援をお願いします。

勤務医との懇談会を通じて、救急を担当している県内の病院の共通の問題は医師不足、医師の高齢化、女性医師の増加、地域連携（救急医療・その他）などです。一人でも多くの若い医師に山口県に残ってもらう必要があります。山口県では、若手医師が急速に減少しており、このような状態が続けば、山口県の医療の崩壊を招きかねません。そうならないためにも山口大学医学部を中心に、県内の病院が一致団結し、県行政、医師会とタイアップして、オール山口で努力していく必要があります。

勤務医部会の活動をどのように進めたらいいかいつも悩んでいます。問題が山積しているといいながら、その声がなかなか聞こえてきません。不満不平を言うことは簡単ですが、それでは自己満足に過ぎません。勤務医がまとまって大きな声を上げ、市民と一緒に救急医療をはじめいろんな問題を解決していくことが必要ではないでしょうか？勤務医一人ひとりが自分の問題として考え、傍観するのではなく、しっかり目を向けて意見を述べるのが大切ではないでしょうか。

そこで各病院の勤務医の抱えている問題を集約したり、勤務医部会の活動をよりスムーズにする（催しものの紹介など）ために、医師会の中に『医局長メーリングリスト』を作成したいと考えました。なお、このメーリングリストは山口県医師会事務局が管理し、医師会活動のみに限定します。

県内の主な病院および山口大学の診療科の医局長の先生方に案内したところ、現在までに 49 の医局長さんから賛同をいただき、登録いたしました。まだ、返事をいただいていない病院および山口大学の診療科の医局長のみなさんに再度ご案内をいたします。

趣旨に賛同いただける方は山口県医師会宛に別紙 FAX かメールで山口県医師会事務局 藤林様（fujibayashi@yamaguchi.med.or.jp）まで返信いただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いします。

山口県医師会勤務医部会企画委員会委員長
内田正志（JCHO 徳山中央病院小児科）